



## 緑内障になりやすいのはどんな子？

### ■緑内障による通院割合（0～10歳）

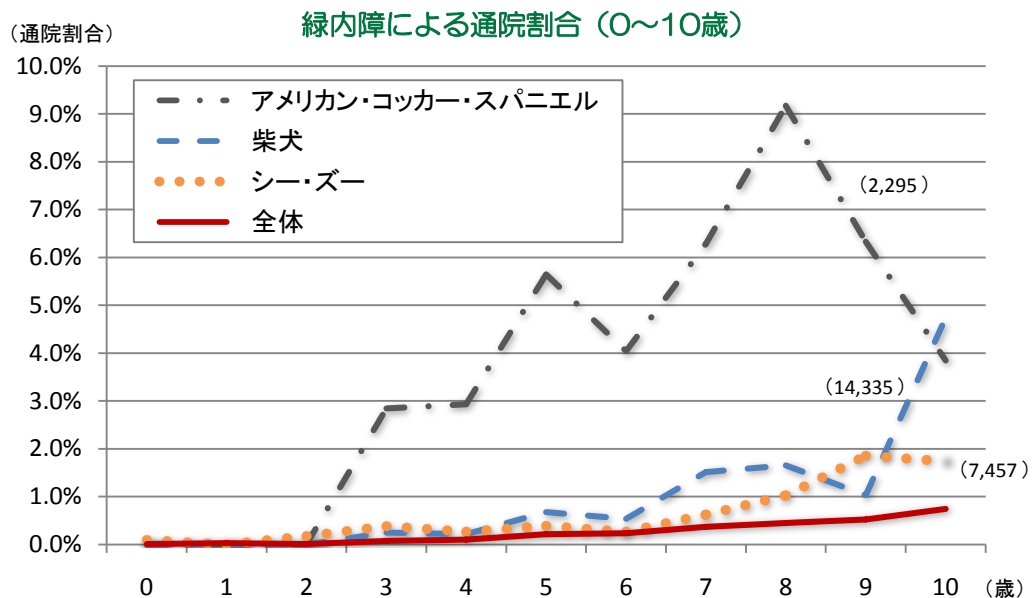
2010年度（2010/4/1～2011/3/31）にアニコム損保の「どうぶつ健保」契約を開始した0～10歳の犬について、緑内障での通院割合を調査しました。

犬種別に比較したところ、アメリカン・コッカー・スパニエルがもっとも高い通院割合を示すことがわかりました。他には柴犬やシー・ズーも、高い割合を示しました。

また年齢別に比較すると、高齢になるにつれて少しずつ通院割合が増加していました。さらにアメリカン・コッカー・スパニエルでは、3歳から割合が著しく増加していくことがわかりました。

緑内障とは、眼球の内圧（眼圧）が高まることによって視覚障害が生じる病気です。主な症状としては、瞳孔の散大（瞳孔が開いたままの状態のこと）、眼の充血、眼球の拡大などがあげられます。さらに急性の場合には、眼球の痛みや失明を生じることもあります。

緑内障は、早期発見することで病気の進行を抑えられる場合があります。したがって緑内障を起こしやすい犬種では、日頃から目の様子などを観察し、異常があった際には早めに気付いてあげられるようにしましょう。



※2010年度に「どうぶつ健保」契約を開始した犬292,290頭（0～10歳）を対象に、緑内障での通院割合を年齢別に調査しました。  
 ※グラフ中の（ ）内の数字は、各犬種の0～10歳の契約頭数を示しています。



アメリカン・コッカー・スパニエルは、  
2歳を過ぎたら緑内障に注意！